

こころ

身近で文化財が

消えてゆく？

この本で扱った遺跡は、開発によって消えてしまった、すでに実物を見ることのできない文化財がほとんどです。こうした大きな開発によって消えていく遺跡に限らず、何かを新しく造ろうとするとき、必ず古いが消えてゆくものがあります。こつて消えていくものをできれば保存、少なくとも記録するのは現代に至る歴史を解明するために必ず積み重ねていかなければならない取り組みなのです。

現在、県内の多くの市町村には「民俗資料館」と呼ばれる施設が置かれています。館内の展示物の多くは、現在では使われていない農・工・漁具や生活用具です。これらはすべて、何一〇年前まで、どこかの家でも当り前に存在したものであり、それが近年、すぐれた化学製品や機械がほとんど登場するようになり、私たちは作業の効率化を求めて、仕事場



農業をまく人(上)と手押し草取り機を押す人(下)
健康ブームにより低農薬有機野菜が好まれるようになり、そうした影響から昔の道具が復活するという例も見られるようになった。

においても、家庭においても、昔から使ってきた道具を使わなくなり、その結果、民俗資料館でしか見られないようになったのです。

ところが最近、そうした私たちが取り巻く環境が、変化を見せるようになってきました。ハイテクを使った新しい機械が次々に持ち込まれる一方で、民俗資料館で見られなくなった物たちが現役に復帰するという状況が生まれているのです。たとえば健康ブームにより、私たちが口にしている食品も低農薬・有機食品が好まれるようになりました。当り前に使われていた除草剤の使用が減り、昔から使われてきた手押し草取り機を使う農家も現れてきたのです。

もちろんこつとした例は、農具に限った話ではありません。カヤやカマドなども、昔の道具が脚光を浴びた例と言えるでしょう。こつとした状況は、「新しいものが万能ではなく、古いものが不要とは限らない」とことを私たちに教えているのです。

さらに身近なものを探してみましよう。毎日なげなく歩いている町の中にも、消えて行くかもしれない重要な文化財があるのです。



簸川平野と築地松のある風景

簸川平野の家々では、北西の季節風から家屋を守る築地松が備えられた。このような家々を中心とした古くからの集落は、旧河川の自然堤防上に作られていることが多い。川筋に並ぶように昔からの集落が続いている部分が旧自然堤防。古代の地形が現在の家並みからもわかる。

簸川町を中心に広がる簸川平野は、その風景を見ただけでも、この地域全体が文化財であることを見て取る人がいるでしょう。簸川平野では、広々とした農地が続く中、古くからの集落が帯状に延びているのがわかります。集落の続いている所は、まわりの農地よりわずかに標高が高くなっているのです。実はこつとした所は、古い河川の自然堤防上で古い地形を現在の風景でも見てとることができているのです。

ついでまつ 築地松



松江城下町の町並み（松江寺町付近）
江戸時代の松江城下町は、町並みにも工夫を施して外敵の侵入にそなえていた。その様子が現在の市街地にも、斜めに交わる交差点となって残っている。

松江の町を歩いてみると、道路がカギ形に蛇行していたり、斜めになった交差点が数多く見られます。こつとした道路や交差点は、車社会の現代では渋滞の原因になり、改善が要求されていますが、実はこつとした町並みも、重要な文化財の一つなのです。

近世初頭に造られた松江城は、水の要害と言われ、市内のあちこちに濶削りがめぐらされているほか、町並みにも工夫が凝らされています。カギ形になった道路や斜めに交わる交差点は、「遠見遮断」と呼ばれる仕組みで、外敵が進入してきたときに外敵の視界を妨げるようにしてあるわけです。現在では、不便な道に見えますが、一つの形がでかあがるには、それなりの理由と歴史的な意味が存在しているのです。



大森町の町並み
大田市大森町は、江戸時代を中心に銀の採掘で栄えた町。その町並みの保存地区は、現在も観光客が絶えない。

こつとした町並みから残る風景は、新しく造られた道路とこれに沿った町並みの中に消えて行くこつとした歴史がある古い町並みが消えていく中、いま全国各地で新しい試みが始まっています。歴史ある町並みを残し、観光に生かそうというものです。県内では、大田市大森町の近世以来栄えた銀山の町並みや、松江市の武家屋敷などがそうです。もちろん特別な町並みだけでなく、農村には農村の、漁村には漁村の、それぞれに歴史ある町並みを見ることが出来る場所はまだいくつも残っています。こつとした、身近な文化財にもこつと触れてみてはいかがでしょう。